



## 見頃の薬用植物

今回は、果実が薬用とされる植物を2つ紹介します。

### ■サネカズラ（ビナンカズラ）

*Kadsura japonica*

生薬名：南五味子（なんごみし）  
 薬用部位：果実  
 薬効：鎮咳



茎から滲出した粘液を武士が整髪料に用いたためビナンカズラ（美男葛）とも呼ばれる。また光沢を出すため絹の糊づけや製紙にも用いられる。

生薬名の五味子は、皮・果肉は甘酸っぱく、種は辛苦く、全体に塩辛い味があり「甘・酸・辛・苦・鹹」の五味を持つところから名付けられた。市場には南五味子と五味子（北五味子）がある。



南五味子は水で煮詰めて鎮咳などに服用される。北五味子はチョウセンゴミシ（左図）の果実で、滋養強壮、鎮咳作用は南五味子に勝る。五味子が含まれる漢方処方「小青龍湯（シヨウレイユウ）」は風邪やアレルギー性鼻炎により、鼻水が出る時などに用いられる。五味子酒や韓国伝統の五味子（オミジヤ）茶は滋養強壮を目的に飲まれる。

（注：左図は北五味子の果実を示す）

### ■ネズミモチ、トウネズミモチ

*Ligustrum japonicum*、*L. lucidum*

生薬名：女貞子（じょていし）  
 薬用部位：果実  
 薬効：滋養強壮、強心、利尿



大気汚染・塩害・病虫害など悪環境に強いので、高速道路の分離帯や公園など広く植栽されている。

ネズミモチの名は、熟した果実がネズミの糞に、葉がモチノキに似ていることから名付けられた。葉を揉むと黒糖の香りがするため沖縄ではサーターギー（砂糖の木）と称される。生薬名の女貞子は、冬でも青々とした葉で寒さを凌いでいる様子を女性の貞節になぞらえたもの。

晩秋から冬にかけて完熟して黒くなった果実を採取し乾燥する。足腰の筋力低下、めまい、白髪、視力低下に用いられている。女貞子茶や女貞子酒は疲労回復、滋養強壮に飲まれる。

